

# サンタモニカのサンセットビーチが横浜に出現！ 50年代のアメリカンダイナーやカラフルな“レトロ可愛い”が溢れる 横浜赤レンガ倉庫『Red Brick Sunset 2026』

## 8月1日(土)より計30日間、入場無料で開催！

西海岸で人気の定番フード、ハンバーガー、ひんやりアイスクリームなどローカルグルメも満喫

横浜赤レンガ倉庫では、2026年8月1日(土)から8月30日(日)の計30日間、横浜赤レンガ倉庫イベント広場にて『Red Brick Sunset 2026』を開催します。※7月31日(金)は17:00プレオープン



『Red Brick Sunset 2026』キービジュアル

本イベントは、横浜赤レンガ倉庫の開放的なロケーションを活かし、横浜にしながら“異国情緒を味わえる”ことをコンセプトに、今年で開催19回目を迎えます。昨年は約61万人(※1)にご来場いただき、横浜の“夏の風物詩”として県内・県外問わずご好評いただいています。(※1) 横浜赤レンガ倉庫1・2号館来館者数より算出

近年は、「タイ」「ラテンアメリカ」「地中海」など、世界各地の人気リゾート地をテーマに開催。今年も、アメリカ西海岸の人気リゾート地「サンタモニカ」をテーマとしました。暑い日々の中で少しでも涼を感じていただけるよう、会場はサンタモニカの中でも「サンセットビーチ」をイメージし、現地の洗練された街並みや、“レトロ可愛い”ポップでカラフルな世界観を表現します。

2026年はサンタモニカが終点となる「ルート66」の開通100周年を迎えます。さらに、アメリカ独立から250周年を迎える節目が重なる特別な年となります。サンタモニカでサンセットを見るリラックスした雰囲気や、アメリカンな気分になれるローカルグルメで海外リゾート気分をお楽しみください。

## <会場の見どころ>

### ■ 穏やかなサンセットビーチ、50年代の“レトロ可愛い”カラフルなアメリカンダイナー等、サンタモニカに浸る会場装飾

サンタモニカは、アメリカの東西を結ぶ「ルート66」の終着地点で、アメリカ西海岸・カリフォルニア州に位置する人気の観光地。ヤシの木が並ぶ広大なビーチや、洗練された街並みがあることから、様々な過ごし方でリラックスした時間を過ごす人々で溢れます。年間を通して晴天日数が多く、穏やかな気候も特徴のひとつです。

そんな街の特徴を表現すべく、“レトロ可愛い”が詰まった**1950年代のアメリカンダイナー**が登場するなど、**アメリカンな心躍るカラフル小物**で会場が彩られます。横浜にいながら、サンタモニカのサンセットビーチの世界観を存分にお楽しみいただけます。



会場イメージ

### ■ 西海岸のローカルグルメでサンタモニカを堪能！定番フードからひんやりアイスクリームまで幅広く登場！

サンタモニカをイメージした会場内にて、更にその雰囲気感を堪能いただけるグルメもご提供します。ハンバーガーなどのアメリカ西海岸で人気を誇る定番カジュアルフードや、夏にうれしいアイスクリームをはじめ、複数のローカルグルメをご用意しています。サンセットにぴったりなドリンクにも注目です。



フードイメージ

## <開催概要>

- ・期 間：2026年8月1日（土）～8月30日（日） 計30日間  
※雨天決行、荒天時は休業することがあります。 ※7月31日（金） 17：00プレオープン
- ・会 場：横浜赤レンガ倉庫イベント広場（〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港1-1）
- ・時 間：11：00～22：00（飲食L.O. 21：30）
- ・入 場 料：無料 ※飲食、物販代等は別途
- ・主 催：横浜赤レンガ倉庫（株式会社横浜赤レンガ・公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）
- ・後 援：横浜市、アメリカ大使館
- ・特設サイト：<https://www.yokohama-akarenga.jp/event/redbrick-summer/index.html>

## <SDGs への取り組み>

『Red Brick Sunset 2026』では、SDGs への取り組みを積極的に行なっています。

### ◎Fry to Fly Project

国内資源循環による脱炭素社会実現に向けたプロジェクト「Fry to Fly Project」に協力。イベントで出た廃食用油を持続可能な航空燃料製造に提供。従来の航空燃料に比べ、CO2 排出量を約80%削減できます。

### ◎再生可能エネルギーの地産地消

脱炭素化の実現に向けた再生エネ普及拡大の一環として、横浜市内の家庭に設置されている太陽光発電設備の余剰電力（卒 FIT）を活用した取り組みを推進。イベントを含む、横浜赤レンガ倉庫で使用する電力の約2割相当を賄い、年間約440トンのCO2 排出量を削減できる見込みです。

※画像はイメージです。

※【注意】本リリースに記載されている内容は、変更になる可能性があります。7月初旬頃に詳細情報の発表を予定しております。



## <本件に関する一般向けのお問い合わせ先>

横浜赤レンガ倉庫 2号館インフォメーション 電話：045-227-2002(代) ※受付時間：11：00～20：00